

夢を追う生き方に学ぶ

講演会 二宮忠八物語

～世界に誇る
やわたの偉人～



二宮忠八のエピソード
などを話す友田享宮司

飛行神社建立 宮司が語る

生涯たどるミュージカル

市制施行40周年記念日の11月1日に、講演会「二宮忠八物語」が世界に誇るやわたの偉人として文化センター小ホールで行われ、約1



ミュージカルで歌って踊る劇団員

50人が来場しました。二宮忠八は、愛媛県八幡浜市で生まれ、本市で有人飛行に取り組み、飛行神社を建立した本市ゆかりの偉人です。1部では、忠八の生涯を描いたミュージカル、2部では、飛行神社の友田享宮司による講演を行いました。

ミュージカルは、主に愛媛県内の小中学生を対象に活動している「坊っちゃん劇場」が公演。小さい頃に両親を亡くしてから、晩年に飛行神社を建ててからの忠八の一生を、3人の劇団員が演じ、夢をもち、あきらめないことの大切さを伝えました。

講演では友田宮司が、忠八が学校建設のために多額の寄附をしたことや、100年以上経った今でも、年間7～8万人が訪れる飛行神社を建てたことを挙げ、飛行機を飛ばすという夢は叶わなかったが、自分の思いを後世に残そうとした忠八の生き方をたたえました。

1日1円 善意の輪

八幡市老人クラブ連合会

11月20日、福祉会館で「愛の貯金箱」の開封作業が行われ、市老人クラブ連合会の会員約40人が、硬貨などを仕分けしました。

同会員が「1日1円」を合言葉に貯める「愛の貯金箱」は、昭和56年から始まり、今年で37回目。今年の2月に、各会員宅に貯金箱約5千個が配布され、会員たちは買い物のお釣りなどを、1年かけてコツコツと貯めてきました。

会場では、4つのテーブルに分かれて作業を開始。貯金箱から硬貨やお札が次々と取り出され、テーブル上にはたくさんの善意の山が出来ていきました。会員たちは、1円玉と、それ以外の硬貨を素早く仕分けて袋詰めを行い、市内7カ所の郵便局で集計しました。

今回集まったのは、94万4千630円。全額が市に寄附され、地域福祉に役立てられます。

愛の貯金箱

94万4千630円 市に寄附



手際よく硬貨を仕分ける女性会員たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

行進や敬礼規律訓練を披露

9年ぶり消防団市長査閲

11月5日、市民スポーツ公園で、「平成29年度八幡市消防団市長査閲」が行われ、各地区の消防団員が日頃の訓練の成果を市長の前で披露しました。

同査閲は、市制施行40周年を記念して、9年ぶりに実施。消防団の団結力と士気を高め、活動の一層の充実につけるために行われました。

敬礼、方向転換、礼式などを行う規律訓練では、分団長の号令のもとに、団員は統一のとれた動きを見せ

規律訓練で行進をする消防団員



ました。また、放水するまでの正確さと速さを競う小型ポンプ操法と、美濃山地区の山林からの火災を想定した訓練を実施し、団員は小型動力ポンプ付軽自動車から素早くポンプやホースを設置、放水する姿を披露。同査閲と同時に実施された「京都府知事優良消防団表彰調査」では、調査官から「極めて優秀」との評価を受けました。平成30年2月には京都府知事表彰旗が授与されます。

安全・安心なまち みんなの願い

橋本小拠点にパレード

11月23日、「安全・安心のまちづくり」パレードが橋本小学校を拠点に開催されました。住民の防犯意識の向上と犯罪のないまちづくり推進のために、約800人の市民が地域を行進し、啓発活動を行いました。

同パレードは、八幡市自治連合会の主催。市内を6地域に分け、平成16年から毎年行われています。



横断幕を掲げて行進する参加者たち

出発前に行われた記念式典では、同連合会会長の上原嘉昭さんが「『住んでみたい』『住み続けたい』そして『住んで良かった』と思えるような八幡を目指してまいります」とあいさつ。また、「安全・安心のまちづくり」に貢献した11人と1団体に感謝状が贈呈されました。

パレードでは、パトカーや府警察の音楽隊や平安騎馬隊の先導に続いて、参加者たちが約2キロを行進。「振り込め詐欺に注意」などのプラカードを掲げ、「安全・安心のまちづくり」を地域住民に訴えていました。